

2014年(平成26年)7月2日(水曜日)

自民総務会で 村上氏が反対

自民党は1日の総務会で、新たな憲法解釈の閣議決定案を了承した。会議の席上、村上誠一郎元行革相が「憲法改正が筋で、解釈変更は認められない」と反対したが、野田総務会長は「圧倒的に賛成多数だ」と述べ、了承されたとの判断を示した。総務会後の記者会見で、野田氏は「とりまとめの際に反対の声はなかった。全会一致と見なしたい」と語った。

総務会は、党として法案の賛否などを決める事実上の最高意思決定機関で、全会一致が慣例化している。2005年6月、郵政民営化関連法案を巡り意見集約が難航し、多数決で了承した例もある。